

## 連携中枢都市圏構想の推進に向けた総務省の財政措置の概要

コンパクト化とネットワーク化により活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的に、連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結し、連携中枢都市圏ビジョンを策定した連携中枢都市及び連携市町村の取組に対して、必要な財政措置を講じる。

### 1. 連携中枢都市及び連携市町村の取組に対する包括的財政措置

#### (1) 連携中枢都市の取組に対する財政措置

##### ①普通交付税

連携市町村も含めた圏域全体の住民のニーズに対応した、「経済成長のけん引」及び「高次都市機能の集積・強化」の取組に対する財政措置。

圏域全体のために連携中枢都市が実施する取組に係るものであることから圏域人口に応じて算定（圏域人口75万の場合、約2億円）。

##### ②特別交付税

「生活関連機能サービスの向上」の取組に対する財政措置。

1市当たり年間1.2億円程度を基本として、圏域内の連携市町村の人口・面積及び連携市町村数から上限額を設定の上、事業費を勘案して算定。

#### (2) 連携市町村の取組に対する財政措置（特別交付税）

「生活関連機能サービスの向上」の取組に加え、「経済成長のけん引」及び「高次都市機能の集積・強化」に資する取組に対する財政措置。

1市町村当たり年間1,500万円を上限として、当該市町村の事業費を勘案して算定。

### 2. 外部人材の活用に対する財政措置

産業振興、医療サービスの向上、ICTの効果的活用などの取組を進めるため、圏域外から専門性を有する民間又は行政分野の人材を確保し、活用する経費に対する特別交付税措置（圏域構成市町村当たり年間700万円を上限とし、最大3年間の措置。）。

### 3. 個別の施策分野における財政措置

#### (1) 病診連携等による地域医療の確保に対する財政措置（特別交付税）

病診連携、夜間休日医療、遠隔医療等により地域の医療提供体制の確保に取り組む市町村に対し、特別交付税措置（圏域の中核的病院と位置づけられた市町村立病院又は民間病院を中心とした取組に関する市町村の負担金へ

の特別交付税措置（８０％、上限８００万円。）。

(2) へき地における遠隔医療に対する財政措置の拡充（特別交付税）

(1) の取組の一環として、へき地保健医療事業実施計画に基づき遠隔医療の取組を行う市町村に対して遠隔医療システム運営に要する経費への特別交付税措置の拡充（８０％）。

**4. 連携中枢都市圏の形成に対応した辺地度点数の算定要素の追加**

連携中枢都市圏の形成により、辺地度点数の積算に当たって連携中枢都市までの距離を算定することを可能とする。

# 連携中枢都市圏構想の推進に向けた総務省の財政措置の概要

地域において、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点である「連携中枢都市圏」を形成することを目的に、連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結し、連携中枢都市圏ビジョンを策定した連携中枢都市及び連携市町村の取組に対して、必要な財政措置を講じる。

## 1. 連携中枢都市及び連携市町村の取組に関する包括的財政措置

### (1) 連携中枢都市の取組に対する包括的財政措置

#### ①普通交付税措置

「経済成長のけん引」及び「高次都市機能の集積・強化」の取組に対する財政措置

(圏域人口に応じて算定／例：圏域人口75万で約2億円)

#### ②特別交付税措置

「生活関連機能サービスの向上」の取組に対する財政措置。1市当たり年間1.2億円程度を基本として、人口・面積等を勘案して上限額を設定

### (2) 連携市町村の取組に対する特別交付税措置

1市町村当たり年間1,500万円を上限

## 2. 外部人材の活用に対する財政措置（特別交付税）

- ・圏域外における専門性を有する人材の活用  
上限700万円、最大3年間の措置

## 3. 個別の施策分野における財政措置

- (1) 病診連携等による地域医療の確保に対する財政措置  
病診連携等の事業に要する市町村の負担金に対する特別交付税措置（措置率0.8、上限800万円）
- (2) へき地における遠隔医療に対する特別交付税措置の拡充（措置率0.6→0.8）

## 4. 連携中枢都市圏の形成に対応した辺地度点数の算定要素の追加

- ・辺地度点数の算定に当たって近傍の市役所等にかえて連携中枢都市までの距離を算定可能